

ため池の 状況を確認



日本共産党議員団は、山間地にあるため池の一つ、刈安池(浦川原区山本)も現地調査しました。同池は、この間の渇水で水位が下がり、田に配水できる状態ではありませんでした。

このような山間地のため池は農業用水確保に欠かすことのできない施設ですが、性質上標高の高いところにあるため、万が一決壊すると、下流に甚大な被害を及ぼすおそれがあります。市ではそうした危険に備えて「ため池ハザードマップ」を作成し、決壊してから10分後にはどの地域が被害を被るかなどの予想を図示しています。

視察した刈安池も、池自体の維持のため一定量の水位を保っていますが、池の堤体の遙か下には集落が見渡せ、万が一決壊したらたいへんなことになることが予想できます。引き続き適切な維持管理が必要であることが実感できました。

日本共産党上越市議員団ニュース
No.600 2018年8月26日

連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 橋本 正幸 080-1980-9855 (三和区鴨井)
先 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)

先日の雨も “焼け石に水” 状態

日本共産党議員団 干ばつ被害をさらに調査

日本共産党議員団は8月20日、平良木前市議を含めた4人で渇水被害の激しい安塚区、浦川原区の農地を視察しました。

当議員団はこの夏5回以上にわたって現地調査を行ってきましたが、今回は16日前後のまとまった降雨を受けての調査です。特に山間地のため池の貯水の回復が期されましたが、残念ながら水位は下がったままで、田への配水は期待できない状態です。(写真上は、菱田大池の様子)

安塚区上方では、給水の途絶えた田で稲が穂をつけられないまま立ち枯れ状態です。(写真下) かるうじて穂をつけた稲も、十分にふくらむ前に根から枯れてきており、収穫には結びつきません。地元の農家の話では、収穫できても、反当たり1俵程度ではないかとのことです。なお、出穂していない田で



も、来年の作付けに向けて稲刈りをしなくてはなりません。また、地割れしたままでは作付けができません。そこで、今後は、来年の作付けに向けた復旧工事などに関する行政の取組も求められます。また、このあと台風などで豪雨になった場合、乾ききって保水能力を失った田が崩壊したり崩落したりすることも心配されます。23日には市議会農政建設常任委員会による現地視察も行われましたが、こうした状況把握を基に、行政のさらなる取組を求めていきます。

おかげさまで600号
よりいっそう親しまれる
紙面づくりに努力します

当議員団ニュースは、14市町村の合併間もない2005年2月27日に創刊して以来、基本的に毎週発行し、今号で600号を迎えることができました。これまでのご支援に深く感謝いたしますとともに、これからも変わらぬご愛読をお願い申し上げます。

トイレ設置は6年後から？

—ほくほく線の列車—

6月24日に行われた市議会交通政策調査対策特別委員会では、第三セクター鉄道の利便性向上の状況などが明らかになりました。

それによると、市民から強い要望が出されている「ほくほく線の各列車へのトイレ設置」については、2024年以降の

車両の更新に合わせて行う計画であるとしています。

今回は、その計画の前倒しが検討されていることが報告されましたが、現行の計画では、2024~2029年の間に12両を更新する予定で、その際にトイレ付き車両を導入するとしています。